

IFEトレーニングコース・草津セミナー2016

健康管理センター医師 伊藤 隆

私は、2016年8月に、WHO協力センターである群馬大学多職種連携教育研究研修センターの主催で行われた群馬県草津町での「IFEトレーニングコース・草津セミナー2016」に講師として招聘されて参加しました。WHO協力センターは、WHOの各種事業を専門的・技術的に支援するためにWHO各地域事務局長から指定された機関で、事業ごとに国際的なネットワークを形成しています。現在80ヶ国を超える、800余りの機関が指定されており、様々な分野でWHOに情報提供等を行っています。

多職種連携教育 (IFE, Interprofessional Education) とは、「医療に従事する多種多様な専門スタッフが、各々の専門性を前提に目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供する」ことを目的として行なわれている教育手法です。日本でIFEが展開される上で重要な役割を果たしたのが、全国的な組織の設立です。一つは、日本保健医療福祉連携教育学会 (JAIFE) であり、もう一つは、日本インタープロフェッショナル教育機関ネットワーク (JIPWEN) です。前者の設立には当病院の高橋榮明先生が新潟医療福祉大学学長であられた頃、指導的役割を發揮されました。これらの二つの組織の設立により、現在、保健医療分野において多くの大学でこの教育手法が取り入れられています。JIPWENは2008年に結成されました。現在、新潟医療福祉大学などおよそ12大学が参加しています。その代表大学が群馬大学で、渡邊秀臣群馬大学保健学研究科教授を中心に加盟大学での様々な特色のある教育活動を展開しているほか、一方でWHOとの活動を開始し、2013年7月に多職種連携教育研究研修センターの指定を受けました。WHO協力センターとして次のような様々な活動を行っています。

1. WHO本部/WHO西太平洋地区事務局の多職種連携教育・協働に対する取組の普及
2. 多職種連携教育・協働の効果に対するエビデンスの収集
3. 系統的文献調査により多職種連携教育・協働の効果の検証の実施
4. WHOの調整のもと、西太平洋地区加盟国の教育開発センターと協力して多職種連携教育ワークショップを開催
5. 教育者ならびに保健医療関係者に対する研修コースの開催

このうち、今回の研修は5番目の活動の一環です。2013年8月に第1回の国際研修が実施されました。今回は、第4回目です。私は第1回から参加しています。

昨年国内参加者向けの研修と外国からの参加者向けの国際コースが行なわれています。私は、国際コースの参加者にわが国の疾病等の発生の状況、保健医療制度、各専門職の教育システムなどについてそのアウトラインを講義したほか、全体のシンポジウムなどにも参加しました。外国から参加した研修生は、インドネシア3名、モンゴル2名、ラオス1名、韓国3名で、国内の参加者、群馬大学の関係教員などを入れ、合計46名の参加者を得て、8月21日から27日にかけて行われました。

全体の研修の内容はオリエンテーションに続いて、IFEについての概説、JIPWEN加盟大学におけるIFEの紹介、長年、WHO職員を務めた大学教員による人材育成分野におけるWHOの新しいチャレンジの紹介、日本の保健医療を取り巻く諸問題などにつき、また、研修の後半では、外国からの参加者がそれぞれの大学におけるIFEの取り組みや将来展望などにつき、発表し討論を行いました。参加者の中には教育学の専門家もいて、活発な議論が行われました。草津での研修の後は前橋市で群馬大学や関連病院の見学などもあり、参加者はおおいに得るところがあったのではないかと感じました。

サービスの受け手を中心に据えた保健医療分野における各職種の協力は、合理的で効果的な保健医療活動のために重要であることは議論の余地のないものです。この活動を通じて、アジアを中心とした地域にIFEが定着・発展することを願っております。



NSG健康サポートクラブ通信 2016年秋 号
2016年12月7日発行